

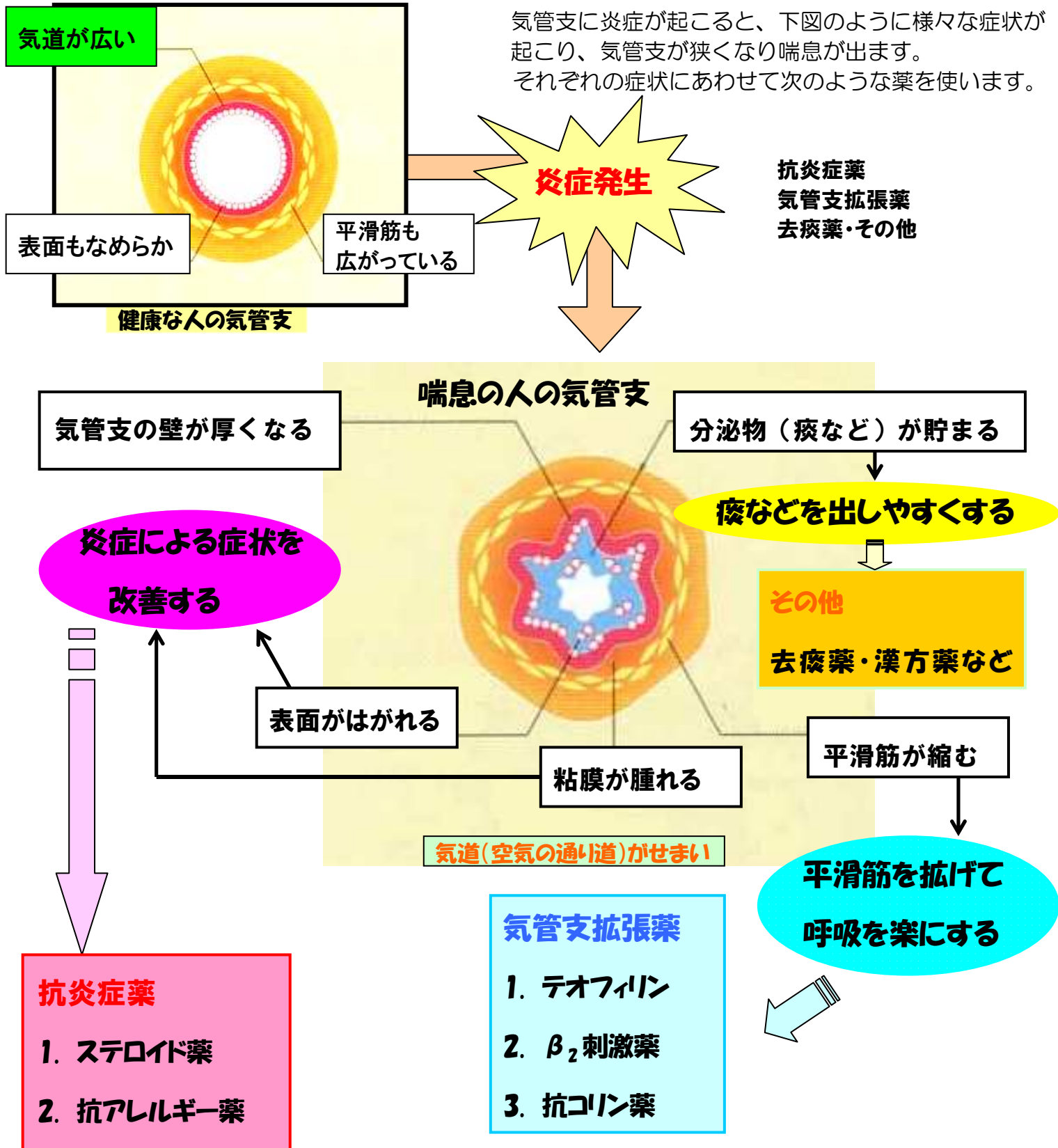
喘息ニュース 8月号

発行 西淀病院・のぞと診療所
喘息グループ

毎日毎日暑い日が続きますね。セミの鳴き声でより暑く感じるような気がします（笑）夏バテはしていませんか？



☆ 喘息の薬もいろいろあります。ここではどのような薬が使われるのかみてみましょう。



ステロイド薬



飲み薬:プレドニンなど
吸入薬:フルタイド・パルミコート・キュバールなど

重要!!

炎症を強力に抑えます。他にも多彩な効果があります。

飲み薬は発作にも予防にも使います。副作用はムーンフェイスや体重増加など。
(長く使っていると糖尿病や骨粗鬆症なども起こることがあります。)

吸入薬は主に予防として定期的に使います。**喘息治療の一番大切な薬**です。
飲み薬と違い副作用は声枯れや口内炎などが多く、全身への影響は大変少ないです。

抗アレルギー薬



飲み薬:シングレア、塩酸エピナスチンなど
吸入薬:インタール A、リノジェットなど

アレルギーを抑える薬です。炎症がひどくなるのを予防します。

予防のための薬です。
効果が出るのに2~4週間ほど時間がかかる場合があります。
主な副作用は眠気・口が渇く、尿がでにくくなるなど

テオフィリン



飲み薬:テオドール・ユニコンなど
注射薬:ネオフィリンなど、
坐薬:アルピナ

気管支を広げて呼吸を楽にします。(炎症を抑える効果もあります。)

予防にも発作にも使います。使用量は個人差が大きく体内の薬の量が多すぎると副作用が出やすい薬です。(胃痛・吐き気・頭痛・不眠・動悸など)

飲みすぎると危険です。決められた量を守ってください。
飲み合わせの悪い薬もあるので他に薬を使うときは必ず医師に知らせましょう。

β₂ 刺激薬



飲み薬:スピロペント・メプチンなど
貼り薬:ホクナリンテープ
吸入薬:ベネトリン・サルタノール・メプチンエアー、セレベントなど

交感神経を刺激して、気管支をひろげます。

効果時間の短いものは発作時に使います。
(ベネトリン・サルタノール・メプチンエアーなど)

効果時間の長いものは予防に使います。(セレベント・ホクナリンテープなど)
副作用としては手が震える、動悸などがあります。心臓に負担がかかることもあります。また、発作止めの吸入薬だけを頻繁に使い続けるのは危険です。
必ず予防の薬も一緒に使しましょう。

抗コリン薬



吸入薬:テルシガン・スピリーバ

副交感神経の働きをおさえ、気管支が縮むのを抑えます。

痰を出しやすくする効果もあります。
口が渇く、尿が出にくいなどの副作用があります。
前立腺肥大や緑内障の人は使わないほうがよいでしょう。

去痰薬・漢方薬など

去痰薬 飲み薬:コデソルバンなど、吸入薬:アレベール⇒痰を出します。
漢方薬:清肺湯、柴朴湯、麦門冬湯など⇒体のバランスを整えるなど